

令和8年度 学校研究の計画

学校教育目標

自律・挑戦・対話の意思を持って主体的に生きる生徒の育成

学校研究主題

生徒一人ひとりが主役となる授業づくり

1. 研究主題の設定理由

本校は令和の日本型学校教育の具現化に向けて、授業改善を学校研究の中核に据え、継続的に取り組んでいる。本主題は、昨年度の研究の成果と課題を踏まえて設定したものである。昨年度は主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善に取り組んだ結果、生徒の個別と協同の学びが高まり、教員の授業観にも「生徒に学びを委ねる」という変化が見られた。

一方で、「本物の学び」では、未だ授業の主役は自分自身だということを意識できている生徒が少ない。今後、生徒の学びがより深いものにしていくために、さらなる**個別最適化**を目指し、「**生徒一人ひとりが主役の授業**」を目指していく必要がある。

2. 研究の重点項目

1. 「個別最適な学び」（自己決定の機会を増設）

生徒の多様な特性を踏まえ、一人ひとりの学びの状況を見取りながら、環境設定の充実を図る。授業においては、自己決定の機会を増やし、学習が苦手な生徒にも「できた！」という成功体験をもたせるとともに、学習が得意な生徒にも挑戦意欲を引き出す選択肢を用意する。

また、これまでの一斉指導において見られた指示・命令中心の学習の在り方を見直し、生徒自身が学習方法や内容などを選択し、自己決定しながら学ぶ個別最適な学びの実現をめざす。

2. 「動機付け」

生徒が学習の意味や必要性を実感し、主体的に学びに向かうことができるよう、「なぜ学ぶのか」を意識した授業作りを行う。単元や授業の導入において、学習内容と生活や社会との繋がりを示し、生徒が自分事として学びを捉えられるようにする。また、学習の過程や振り返りの場面において、「どのような場面で使えるか」「自分にとってどのような意味があるか」を言語化させることで学びの価値を実感できるようにする。これらを意識して、一人ひとりが学ぶ理由・当事者意識を持ち、主体的に学びに向かう姿の育成をめざす。

3. 安心して学び合う場と関係作り

昨年度に引き続き、「PBS 理論」の視点に基づき、望ましい学習行動の明確化とスモールステ

ップでの環境設定・価値づけを徹底することで、誰もが「できた」を実感し、安心して学習に取り組める土台を築く。この安定した土台の上に、「対話」を積み重ね、失敗を恐れず互いに助け合える豊かな関係性を構築することを目指す。これらの取り組みを連動させることで、生徒の苦手意識を軽減しながら肯定的な行動変容を支援し、集団全体で高め合える学びの場と関係を作っていく。

研究計画 ※5月以降は昨年度実施したもの

月	全体会	委員会	内容	備考
4	職員会議		・学校研究の主題・副題，研究の内容の確認 ・片中スタンダードの共通理解	
	校内研修会	研究推進	・研究主題に基づく模擬授業	清水（国語）
	校内研修会	研究推進	・授業に生かすポジティブ行動支援 ～石川健介先生（金沢工業大学）のご講義～	オンライン研修
5	校内研修会	研究推進	・個別最適な学び研修 ～指導主事を招いて～	指導主事来校
6	校内研修会	研究推進	・計画訪問に向けての指導案作成についての説明	
7	互見週間	研究推進	・互見週間の提案 ～個別最適な学びの取り組みの共有～	
	教科部会①	教科部会	・1学期の個別最適な学びの取り組みの共有	
		研究推進	・指導案作成の締切 ・2学期の方向性の確認	
8	校内研修会	研究推進	・研究授業者の模擬授業を経ての指導案検討会	
	授業づくり 訪問		・指導案検討会 (計画訪問：公開・研究授業指導案検討会) ◎研究授業者 中橋・杉本（数学） ・教科別分科会	
		授業創造 チーム	・1学期 ScTN 分析と2学期以降の授業改善に 向けての提言づくり	
9	計画訪問		・ 計画訪問実施 公開授業 研究授業 教科別分科会	
10	教科部会②	教科部会	・計画訪問を受けての検証と共有	
12		授業創造 チーム	・2学期 ScTN 分析と3学期以降の授業改善に 向けての提言づくり	
		研究推進	・3学期 単元計画の作成 ～個別最適な学びを目指して～	
1	教科部会③	教科部会	・今年度の振り返り，検証	
2		研究推進	・来年度に向けての方向性確認	